

授業科目 「教育実践研究Ⅱ」
 担当教官 平松 義樹
 科目区分 教育実践研究
 受講生 42名

1 授業の目的と概要

本講座の目的は、最近の学校教育をめぐる諸問題、特に学力論や授業論について実践的に研究していくことにある。そして、教師としての使命感や実践的指導力を培うとともに、人間としての生き方について自ら考える力を育てることをねらいとしている。

2 学生による授業評価

本講座では、毎授業後に、下記のような項目について5段階評価を行っている。

話し方や説明の仕方が分かりやすかった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教師の説明力を問う項目。難しいことを易しく説明できているか。 * 「5」の評価が96%、「4」の評価が4%
教育媒体が工夫されていた 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教育機器等を活用し授業効果を上げていたか問う項目。 * 「5」の評価が90%、「4」の評価が10%
構成や展開がスムーズであった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	90分間の授業構成を問う項目 * 「5」の評価が90%、「4」の評価が10%
新しい知識、概念、技能が身についた 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	教授内容として知識や技能の習得があったかを問う項目 * 「5」の評価が98%、「4」の評価が2%
内容・レベルは適切だった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	授業の難易度を問う項目。 * 「5」の評価が88%、「4」の評価が2%、「3」の評価が10%
授業は満足のものであった 悪い< [1][2][3][4][5] >良い	授業の総合満足度を問う項目 * 「5」の評価が90%、「4」の評価が10%

最終授業評価は、下記のとおりである。

 * [学生の受講態度自己評価] 優 (60%)、良 (34%)、可 (6%)、不可 (0%) *
 * [学生による教師評価] 優 (94%)、良 (6%)、可 (0%)、不可 (0%) *
 * [学生の講座満足度評価] 優 (90%)、良 (10%)、可 (0%)、不可 (0%) *

授業改善への試み (昨年度のFDで私が今年度の課題として挙げたものである)

学生の講座満足度や教師評価は思いのほか良かったが、学生の主体的な学びへの参加という点では課題が残った。来年度は、講座の最初に、教育実習の体験等から自らの「課題」を意識させたい。そして、15回の講座の中で、自らの課題がどのように変容していったのかをメタ認知できるような取り組みを行いたいと思っている。毎回の講座において、「課題」を深めていくような「しかけ」としての教材を作成したいと思っている。

授業改善への試みの結果

今年度の傾向として、昨年度と同様に、教師や講座への満足度は高かったものの、学生自身の自己評価はやや低かった。教員から学生の授業の様子を見てみると、私語もなく居眠りもなく授業に没頭しているように感じられたが、学生はやや辛口で控えめに自己評価したようである。今年度の授業では、中学校におけるクラスルーム的雰囲気ができ、全員が一体感を感じつつ授業をすることができた。このようなクラスルーム的雰囲気を醸成することができ、個人的には満足している。来年度もさらなるチャレンジをしたい。

3 学生の自由記述による授業評価

『教育実践研究Ⅱ』という講座は、私にとって・・・』という文章に続けて、自由記述によって15回の講座を振り返らせた。授業目的との関係で、どの程度、達成されたかを知るためである。以下は、学生の文章のいくつかをリストアップしたものである。

- (M)「この授業は、これから先生になりたいという私たちにいろいろなことを教えてくれたと思います。なんだかんだ、自分の人生なので他人に影響されることはあっても、最後は”自分がどうしたいのか？ どうなりたいのか？」だと思います。迷ったり悩んだりしている間は、よくわからなくて、振り返ってみてわかるんだと思います。今、大学で学んでいることや知識、経験が子どもたちに少しでも伝わればいいなと思うし、そこから子ども達と一緒に成長していける人になりたいと感じました」
- (H)「約半年の授業、ありがとうございました。1年生のときに、平松先生の授業を受けて感銘を受けました。3回生で平松先生の授業があると知り受講しました。教師とは、授業とは、子どもとは・・・さまざまな視点から分かりやすく伝えていただき、意欲をもって授業に臨むことができました。先生の教師になったきっかけ、過去、子ども時代、人生の岐路・・・お話を聞いて、こんなにも子どもと距離が近い先生がいるからこそ、子ども達は明るく、自己をみつめながら希望をもって生活できていると思いました。つらい経験があるからこそ、人の痛みが分かる。平松先生はとても大きい人です。私も平松先生のように行動力を持ち、感動や気づきを与えられるような教師を目指します」
- (F)「平松先生の講義を受けることができ良かったです。教育の本質とは何かを知るだけでなく人生についても考えさせられるような講義でした。現在、教員採用試験に向けて頑張っている最中で、自分はどんな教師になりたいかを模索しています。教育実習を終え、自分の教育観というものになんとなくはっきりしてきた今日この頃ですが、私の教育観には平松先生の講義による影響が大きいです。とにかくいろんな本を読み、いろんな世界を知り、そしていろんな経験をし、人間性を豊かにしていけたらいいなと思います。本当にありがとうございました。毎時間、興味深い内容ばかりで、勉強になりました」
- (K)「この講義は、毎回90分があつという間に過ぎます。それは授業に自分が入り込んでいるのだと思いました。今の教育問題を取り上げながら、今、教育学部生である自分は何ができるのか、何を学ばなければならないのかを考えさせられる講義でした。『あせらない・あなどらない・あきらめない』、『未来は変えられる』、これらの言葉を胸に自分を奮い立たせ、教員採

用試験を頑張っていきたいと思います。清水小学校の際は、ありがとうございました」

- (M)「この講義を受けて、本当によかったと思った。教育って何だろう。教師ってどうすればいいんだろう。教師になって、子どもを導く大役なんて果たせるのだろうかと不安でした。でも、講座を通して、平松先生の話聞くうちに、一生懸命子どものことを考えて、子どものために存在する、そういったことから始めることが大切ではないかと思った。子どもと共に、子どもに寄り添っていけばいいのかなと感じた。子どもが学ぶ手助けとなれるよう指導法も含めてしっかり勉強し、経験していきたい。ありがとうございました」
- (S)『春風のように人に接し、秋霜のように自分を振り返る』というのは、すばらしいなと思いました。けれど、つつい自分の周りにいつもいてくれる人たちのことを大切に思えること、大切に気付けることはなかなか難しいです。今日まで平松先生から教育についてたくさんのことを教わりましたが、教育とは自分自身を子どもと向き合わせることなのかもしれないと思いました。うわっつらでは伝わらないと何度も考えさせられました。子どもと向き合うためには、もっと自分を見つめなければならないと私は考えています。自分のいいところや悪いところを見つめなければ、他者のいいところや悪いところが見つめられないかもしれません。たくさんのことを考えるきっかけを与えて下さってありがとうございました」
- (M)「講義を通して、教師とは何かという教師像を自分なりに考えることができました。これまで大学の授業でも教師像について考えるものはありませんでしたが、今回の講義はより深く考えることができたように思います。やはり教師に求められる資質は教科指導ではありますが、加えて、いかに子どもを一人の人間として見て、その子のためにベストが尽くせるかといった学業以外でも子ども「人」として成長させてあげられる力が求められると感じたので、それが達成できる教師になりたいです。神戸市の教育スローガンには、『人は人によって人になる』とあるように、教師の果たす役割をしっかりと自覚して、これからも精進したいです」
- (J)「この授業を通して教えるとはどういうことかということを考えました。子どもにつけたい力って何なのか、国語の授業の中で生きて働くってどうやってつけさせられるか。答えは、まだ出ません。残りの大学生活の中で多くの書物を読み、この問いに対する答えを探したいです。そして、教員になれたなら、目の前の生徒たちに向き合いながら常にこの問いについて考え成長できる教師になりたいと思います。愛媛大学教育学部に入學し、すばらしい大切な仲間と出会うことができました。この仲間たちと切磋琢磨し、教員となるための力をつけようと思います」
- (O)「教育実習を終え、平松先生の教育への熱い思いにふれ、本気で教員を目指そうと思い、この授業を取りました。教育に関しても、固定観念にとらわれず、広い視野でものごとを考えていくこと、学力とは何か、教育とは何を指そうとしているのか改めて考えさせられました。自分の勉強不足も痛感することができ、さらに自らも学んでいきたいと強く思います。自らものを見ようとする心を忘れないでいたいです。ありがとうございました」
- (Y)「平松先生の授業では、毎回、考えたり悩んだりすることがたくさんありました。それは、平松先生のマジックにかかったのもありますが、自分が考えようとしたからなのかなとも思います。子どもたちに考える場や考える時間をつくることのできる学校や考えたいと思える環

境を創れるようにしたいなと思いました。先生である前に一人の人としてあたたかい人になりたいと思います。ありがとうございました」

- (M)「平松先生のお話は、何度かいろいろな授業でお聞きすることができました。私は大切な恩師の先生が亡くなり、教師を本当に目指そうと思ったのは大学に入学してからです。とても厳しい先生だったけど、平松先生の講義を受けると、時々、その恩師の先生とかぶって、頑張ろうという気持ちになりました。大したプレゼンも作成できない私ですが、自分なりの何かをしっかりとって教員を目指したいと思います。もちろん『あせらず・あなだとらず・あきらめず』です。とても毎回楽しい、そしてためになる授業でした」
- (I)「先生の話を知ると、自分は子どもにとってどんな大人になりたいのだろうといつも考えさせられました。教育実習を通じて、自分の未熟さ、つたなさを実感しました。それでも先生になりたい、子どもと一緒に感じる大人になりたいと思いました。先生として、どんな心で子どもたちと接するか、どんな力をもって子どもたちが自分の力で生きることのできるように導くのか、自分なりにこの授業を受けながら考えました。まだ、はっきりこうだと言えるものはありませんが、子どもたちが笑顔で過ごせるような教育を子どもたちにしていけたらいいなと思いました」
- (S)「本講義を通して、数え切れないほど多くのことを学びました。平松先生との出会いに感謝です。将来、必ず教師となり『目の前の子を幸せにする教育』を実践したいです。今の自分は、努力も実力も足りない。自分の理想と夢に向かって、もっと一生懸命学ぶ必要があると痛感しました」
- (K)「私は浪人してこの愛媛大学に入った。しかし、愛媛大学は私の第一希望ではなかった。私は二度の受験で二度も思うような結果を残すことができなかった。そのことから私は自己肯定感を低め、親とのコミュニケーションも満足にとれない状態が2年続いた。でも、今は愛媛大学に入って良かったと思い、自分も成長できていると感じている。平松先生の授業を受けることができたこと、出会えたことは、愛媛大学に入って良かったこと、私の成長へと大きな要因となったと強く感じる。あと後悔のない大学生活を送りたい」
- (K)「1回1回の授業の内容がとても濃く充実していました。理論的なことを淡々と言われるだけでなく、先生の経験も取り入れられたものだったので、非常に説得力のあるものでした。そして、今、学習アシスタントに行っているのですが、講義で言われたことがこういう意味だったのかを実践を通して振り返ることができたと思います。ありがとうございました」
- (Y)「平松先生の講義は、先生が先生のように感じられず、人生の先輩のように感じました。自分の人生に残っていくだろう素晴らしい言葉や知識をたくさん知り、学ぶことができました。私もなんとなく教師を目指し、なんとなく教育学部に入りました。でも、今は、教師になるという強い気持ちを持っています。私も平松先生のように、人生の先輩として子どもに語り子どものために在る教師になりたいです。ありがとうございました」

すべての方の感想を載せたいのですが、紙面の都合で割愛させていただきます。非常に残念です。受講されたすべての方が自分の人生を豊かに生きることを心から願っています。